20231008 レムナント教会１部

不可能な信仰(マルコ 12:35-37)

　私たちには自分で願ってもいないのに、現実にさまざまな問題とぶつかるようになります。そのような多くの現実の問題の前で思い煩ったり、悩んだり、葛藤を覚えたりする以前に、イエス様を信じている信者であれば自分はどんな存在なのか、誰なのかを考えることがまず先になります。もしそれができればどのような問題があってもそれに打ち勝って勝利でき、また人を生かすおあかしができる証人として用いられるようになるでしょう。
今日の聖書の箇所を見ますと、普段、律法学者はキリストがダビデの子孫だと教えていました。確かにキリストはダビデの子孫として来られると預言されていたことに間違いありません。しかし、そのような教えの中には、キリストがダビデより少し下というニュアンスがあったようです。それでイエス様は「律法学者がキリストをダビデの子孫と教えるとはどういうことなのか」と言って聖書を引用し、「ダビデもこれからダビデの子孫として来られると預言されていたキリストを主と仰いだのではないのか。ならば単にキリストをダビデの子と教えることはおかしくないのか」というお話をしていらっしゃいます。つまり、キリストがもしダビデより下となれば、キリストが来たとしても神様が送られたキリスト、聖書が教えている通りのキリストを信じることは無理なのです。しかもイエス様がキリストと宣言していらっしゃるし、そう言われていることに対して否定したいのですが、大勢の群衆が従っているので、もしイエスがキリストだとしてもそんな大したことではないと言いたいし、言える根拠にしたいのです。そういうニュアンスを持ってダビデの子孫、ダビデの子と教えていたという内容をイエス様が叱っているような場面です。
つまり言葉を変えますと、実際、人間的にはイエス様のことをキリストとして信じることは不可能なことなんだという現れ、裏返しのようなものでもあります。キリストがダビデの子となれば、ダビデの子孫であれば､物理的にキリストをダビデより上にして信じるということはありえないのではないでしょうか｡だから、このようないろんな考え、いろんな状況などを踏まえると、人間的にはキリストを信じること、特にイエス様をキリストと信じることは無理なのです。
ここで私たちは信者としてこのようなメッセージを整理してしっかり心に覚えないといけないと思います。

1.イエス様をキリストと信じたことは、神様の恵みを受けたこと。
その第一が何かと言いますと、第一というよりは一つのことに絞ってそのメッセージを心にぜひ覚えましょう｡それが何かというと､イエス様をキリストと信じたことは､全き神様の恵みを受けたことになります。その他には説明ができません。説明が成り立たないのです。今日の聖書の箇所にあるように、キリストはダビデの子孫ではないのかというふうに取り上げるわけです。

1）本能的にキリストの必要を拒否
人間は本能的にキリストが必要だということを否定することになっています。そのような本性のことを罪と言います。本能的にキリストが必要だということを拒否するように、内側から仕組まれているものなのです。

①希望をささやく文句
それがどのように現れるかと言いますと、希望をささやく文句を取り上げてキリストはいらないと謳っています。努力は必ず結果を見て、努力は必ず報われる。それは間違いありません。けれどもそのように希望をささやくことでその裏に何が隠されているかと言いますと、だからキリストはいりません。努力すればいいではないかということになるのです。諦めなければ必ず道が開けるよ。とてもいいフレーズに間違いありません。諦めなければ道が開けるときがあります。でも何が言いたいのかと言うと、本能的にだから諦めないで頑張ればいいではないか。キリストはいりません。キリストはいらないのです。これが世の中で訴えることであり、この世の教えというものなのです。

②ユートピアの理想

それから今までの歴史を見て、科学や文明が発展すれば必ずユートピアを迎えるようになるよという理想を植え付けるわけです。ほら昔、何十年前、何百年前のことを考えてみなさいよ。そこからどんどん発展して、今に至ってはスマホの時代、インターネットの時代でしょう。そのように発展して進化してきたので、これからこのままこの調子でずっと発展して行けばどんな世界になるのだろうと想像してごらんというわけです。それで今、私たちが経験しているさまざまな理不尽な現実というものは、そのユートピアに向かって進んでいくプロセスの一つに過ぎないものなので、そんなにがっかりしたり落胆したりしなくてもいいよと唱えるわけです。これが世の中の教えであり、人々の本能と合致するわけです。だから皆、なるほどこれからもどんどん発展して行くものなのか。キリストはいらないとキリストを信じる理由がすべて消えてなくなります。

③超越の力頼り
そういう枠の中で、でも現実、限界を見るようになったとき、それは一瞬そこでどうにか乗り越えるいろいろな手段を用いれば結構なことなので、偶像を作って拝んで自分にはない何かの力を頼りにしたり、お札、お守りなどを携帯することでしのいで行けばいいのではないか。宗教の力を少し借りて、自分の限界を少し超えて行けばいいのではないか。運を味方にするさまざまな方法などを研究してみなさいと教えるわけです。大谷のシートを見たことがありますか。自分がこれからの人生において目標を持って、そのためのいろんなことを詳細に書かれています。本当に天才だと思います。その中に運を味方にするために毎日ゴミを拾う、そういうことも書いてあります。別に悪いことではありません。自分の限界を超える力が世の中にはあるので、宗教や偶像やお札やお守り、運などいろいろあるので、そういうところを頼りにすればいいのではないのか。キリストは必要ないよ。キリストを信じる理由はありません。それを直接言う場合はほとんどありません。でも、裏返しますとすぐにメッセージになります。ディズニーのアニメーションのテーマは 100%、全部こういう内容です。日本のアニメーションも全部がこういう内容です。だから人々の本能と合致するのでヒットし、ものすごい商売になるのです。このように本能的にキリストを必要とすることができないのです。

2）人間の真相への無知と無視
それはなぜかと言いますと、もっともなお話のように聞こえるかもしれませんが、人間の本当の姿が何かに対して無知であり、またそれを言われたとしても無視するからなのです。人間の本当の姿は一体なんでしょうか。聖書には誰も分かっていないし、認めようとしていないし、聞いても無視する、でも真理のことを教えています。

①エペソ 2:1-3
エペソ 2：1-3 には、人間の本当の姿をこのように教えています。「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした」が、人間の本当の姿です。これを知りません。お話をしてあげても無視します。「は？そんなの。そんなに人間のことを自虐的に言っていいのか。ユートピアに向かって人間には無限の可能性があるよ。だから努力すればいいんだよ」というふうにこれを無視するわけです。そしてこれに対してイエス様はこのようにおっしゃいました。

②ヨハネ 8:44
あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出たものであったと。これが人間の本当の姿なのです。残念なのは、教会に通ってるクリスチャンでも人間の本当の姿がこのようなものなんだということを真心から認めていないのです。となると世の中のメッセージが聞こえてくるわけです。努力は必ず報われるよ。諦めなければ道は開けるよということに感動を受けて、キリストは飛んでいくわけです。しかもこのような人間の本当の姿が分からないように働いてる霊がいると聖書は教えています。

③Ⅱコリント 4:4

Ⅱコリント 4：4「不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです」。誰も分かっていません。そういう目に見えないこのような悪霊が働いていて、人間の本当の姿、キリストでなければ絶対ダメな希望のない本当の姿のことが分からないように、聞いても否定するように、それで世の中でささやいている希望のメッセージに耳を傾けてそちらの方に従っていくようにします。それが大きな広い門なのです。人間の本当の姿のこと、キリストのほかには希望がありませんという話は狭い門なのです。しかし、その狭い門の中に入ることに永遠のいのちがあり、希望があるわけです。このように人間というのは本能的にキリストを信じることができない者なのです。

3）キリストを必要としても誤解
そして、キリストを必要としても、キリストを誤解して勘違いするのです。イスラエルの人たちはキリストを待っていました。

①イスラエルのキリスト(ヒーロ)
メシヤを待ち望んでいたにも関わらず、そのキリストをどういうふうに理解しているかと言いますと、イスラエルのキリストとして理解しているのです。つまり、イスラエルの周辺のすべての国と民族を滅ぼしてイスラエルを建てあげるヒーロー、英雄としてキリストをイメージしているわけです。

②期待を裏切るイエス
そのキリスト待っているのに、彼らがイメージして理解しているキリストとはかけ離れてている、彼らの期待を裏切るような人がキリストと言っているわけです。イエス様のことを見ると、彼らがイメージしてるキリストとは正反対の姿だったわけです。まず、処女マリヤから生まれたこと、それからガリラヤ出身であること。ガリラヤは田舎中の田舎なのです。そこで良い人が生まれるはずはない、そこから出るはずがないとイスラエルのすべての人がそういう認識でいました。そのようにガリラヤ出身と言われているし大工さんの息子となっているし、しかも彼らが指さして、これはもう神様に見放されている者だと思っている罪人、あるいは彼らが獣以下に考えている異邦人たちと食事をしながら交わりをするということがイエス様がなさっていたことなのです。

③イエス様をキリストと信じることは出来ない
だからキリストは必要なのですが、イエスはキリストではない。彼らが理解している限りではです。しかも挙句の果てにイエス様が十字架で犠牲になるわけです。彼らの中ではキリストが十字架で死ぬということはありえません。キリストは周辺の国を滅ぼすほどの軍事力をもって政治力をもって現れて、全部砕いてイスラエルを世界の最高の国として建てる方と思っていたのに、キリストが来たと言っているのに、やっていることもそうだし、最後に十字架で死なれるということでは到底キリストとは縁のない人になってしまうのです。だからイスラエルとしてイエス様をキリストと信じることは不可能なのです。考えてみてください。このように本能的にキリストを信じることができないし、キリストを求めていたとしてもイエス様をキリストと信じることは不可能なのです。

④その流れの中で、キリストはダビデの子孫と
今短く申し上げましたけれども、このような流れの中で律法学者たちがキリストをダビデの子孫と言っていたわけです。分かりますか。キリストは間違いなくダビデの子孫として来られる方です。でもキリストがダビデの子孫として来られると同じことを言っているにも関わらず、このような流れの中、このニュアンスの中で律法学者は言っているわけです。だからイエス様は「なぜそういうふうに思っているのか。ダビデもキリストを主と仰いでいたのではないのか」とおっしゃっているのです。

4）イエス様をキリストと信じることは絶対不可能
結論で申し上げますと、イエス様をキリストと信じることは絶対不可能なのです。神様から聖書をいただいたイスラエルでさえ、普通の人は言うまでもありません。そういう風になるしかないように罪を抱えているし、そこに付け込んで世の神と言われているものがキリストの栄光を知らないように心、思いをくらませているわけです。単に人々がイエス様を信じていないわけではありません。イエス様のお話が理解できないか

ら信じないわけではありません。内側から本能的に信じることは不可能な状態なのです。誰がでしょうか。すべての人は、罪を犯したので、神の栄誉を受けることができない。異邦人はもちろんのことイスラエルの人々も一緒なのです。それがローマの手紙 3 章に記されている内容の核心ポイントになるものです。だからイエス様を信じること、特にキリストして信じることが絶対不可能なのに、どうして今の私たちはイエス様をキリストとして信じて礼拝の前にレムナントが讃美を捧げて、伝道集会に参加したり、レムナント大会に参加したり、土曜の集中訓練などに参加したりしているのでしょうか。そうしていながらもあまりそういう意識を持たないで動いているのでだいぶ損してしまうのです。せっかく礼拝に来ているのだから、せっかく賛美をささげているのだから、せっかくさまざまな訓練に参加しているとすれば、分かって感謝とともに参加すれば皆さんの内側から変えられて人生そのものに勝利の神の国のことが必ず現れて、見てお話しせざるをえない経験をするようになります。イエス様をキリストと信じたというのが、親が教会に通っているから信じるわけではありません。不可能であるということを大前提にしてください。だから教会に通っていながらも途中で離れる人も結構多いわけです。またいつか戻るようになる人も少なくないでしょう。けれども信じようかなと思って入ってみても、どうしても本能的に受け付けられない。自分が持っている世の中の論理、理論、理屈の中では到底当てはまらないのです。不可能なのです。不可能。学識のある者でも勉強のない人間でも貧乏でも金持ちでも心優しい人間でも不良な子どもでもみな一緒です。

①神様の計り知れない恵み
基本的に不可能です。なのに、誰かさんはイエス様をキリストと信じることができた。それは神様の計り知れない恵みのゆえなのです。計り知れないということに注目してください。今まで申し上げましたように、私たち人間の論理、また計算などに当てはまりません。なぜ信じることができたのか。世の中にあるどのような理屈を探してもそこには当てはまる内容は見当たりません。このように言うことしかできません。神様の計り知れない恵みのゆえに私たちはイエス様をキリストと信じることができたのです。

②エペソ 2:8-9
聖書にはこう書いてあります。エペソ 2：8-9 には「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行いによるのではありません。だれも誇ることのないためです」。

③Ｉコリント 12:3
Ｉコリント 12：3 にも書いてあります。「ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません」。このように神様の計り知れない恵み愛によって、誰も見たこともない、認めてもいないし、気づいていない聖霊の働きによってイエス様をキリストと信じることはできたのです。ここを忘れないようにしましょう。

　つまり、今現在、信者なのに教会に通っているのに、自分が望んでもいない険しい、厳しい、つらいいろんな現実があるかもしれません。これからもいろんな現実にぶつかるようになるでしょう。そこで現実をそのままそれによって自分を評価することはなんと愚かなことでしょうか。どのような現実の前でも、まず自分がイエス様をキリストと告白していることが間違いなければ、その自分を確かめないといけません。それで感謝とともにその現実の前で「私は神様に恵まれた人なんだ。神の恵みが届いて、神の恵みを受けた人間なんだ」ということを堂々と宣言しなければなりません。それを霊的な戦い、信仰生活と言います。
目に見える現実に振り回されてはいけません。死の影の谷を歩いていてもその人がイエス様をキリストと信じている者であれば、まず自分を取り戻さないといけません。私は誰なんだろう。神に恵まれた人です。不思議で不思議でしょうがないけれども、人間的に比べるとあの人とあの友だちとあの人間といろいろ比較されるものがあるかもしれませんが、それを全部無視して、にも関わらずイエスをキリストと信じているのではないのか。ならば私は恵まれた人なんだ。自分のことを大事にしないといけません。自分のことを神の目で見直さないといけません。自分を愛するというのは自己中心的なイメージではなくて、神がおっしゃる通りに神が扱った通りに自分を扱えというメッセージなのです。なぜ皆さんの過去の経験によって、周りが皆さんはどう思っているかによって皆さんを評価しているのでしょうか。もちろん、それを無視してはい

けません。参考にしないといけません。私たちを整えるために神様があらゆるものを教師として用いていらっしゃることを覚えないといけないでしょう。けれども、まず基本的に何がどうであれ人間的な条件がどうであれ、自分は神様に恵まれた最高の人なのです。なぜでしょうか。イエス様をキリストと信じているから。その絶対不可能なことが私には起きているのです。奇跡の人なのです。自分は奇跡の人なのです。現実に騙されないように。

なので、それが宣言できれば、自分のどうのこうのと関係なく、それに縛られることなく、ただ信仰によって堂々と「私は神様に祝福された人なんだ」と宣言しなければなりません。現実がどうであれ。皆さんどんな辛い過去を辿ってきたのか分かりませんが、それがどうであれ「私は神様に祝福された人間だ」と宣言して、その宣言が本物になるまで宣言し続けて、刻印されるまで宣言し続けて、その宣言が本当に自分のものであれば、その時、今悩んでいて葛藤を覚えて振り回されていた現実のことを「あなたがたは知らなくてもいいよ」とおっしゃることが聞こえるわけです。Only 聖霊が臨まれると、お前は違う人間なんだよ。食べるものがないから心配。何かあるから葛藤を覚えるようなそういう存在ではない。イエスをキリスト信じているのであれば、神に恵まれた奇跡の人間であり、神に祝福された幸いな人に間違いないので、それは知らなくてもいいよ。今までとは違うようにやりなさいよ。Only 聖霊が臨まれると、Only なのです。あれこれではなくて、このときあのときだけではなくて Only、常に聖霊が臨まれると、あなたがたは力を受け、地の果てにまで証人となりますというイエス様の御声の前に立つことを祈りと言います。それを信仰と言います。それがクリスチャンの私たちの特権なのです。そのために自分を下ろして行かないといけません。

そうなるために一番邪魔になるのが自分なのです。自我です。その自分を下ろす練習をしてください。自分はダメなんだ、偉いんだと思うことは自分なのです。これは厳しいよ、やりやすいよ、難しいよ、簡単ですよ。それは自分なのです。これはできる、できない、全部自分なのです。それを全部下ろして Only 聖霊が臨まれると。あなたがいくらダメよと言っていても Only 聖霊が臨まれると、私はできませんよと言っている自分でもできるようになります。この信仰に立って祈ることまでたどり着くことができないように邪魔するわけです。なので朝晩、昼間も時間があればやってほしいのですが、これは決まっているわけではありません。けれども一番基本的に、まずは今のこのような内容が聖餐の告白にまとめられています。聖餐の告白を丁寧に声に出して同じフレーズを 30 回ぐらい繰り返して繰り返して自分自身に宣言するかのように、自分が言葉にして喋ったことが自分の耳に聞こえてくるようにします。誰かに聞かせるための告白ではなくて。だから聖餐の告白を自分を下す練習をしながら朝 30 回、寝る前に 30 回。なぜ 30 回繰り返すのでしょうか。脳に刻印しないといけません。心に刻み込まれなければ、それが力を発揮することはなかなか難しいのです。そして今まで信じることができないように入っている違う刻印がいっぱいあるからです。皆さんは気づいていないでしょうけれども、それが邪魔するわけです。いくら邪魔しても事実は事実なのです。

なので、今日のメッセージを覚えて、信じることは実は不可能なんだ。でも信じたのではないでしょうか。だから恵みのほかに、信仰のほかに何にもこだわらないで、御座のすべての祝福が自分のものだということを宣言してください。祈ると本当にそうなるんだろうかと疑わないように。それは全部自分なのです。自分を下す練習しながら、違う、違うとしながら、ただ一つ信仰によって。信仰によって。神から与えられたものなので、信仰によって繰り返し、繰り返し、まず宣言することから始めていただきたいなと思います。神様は皆さんを祝福して世界福音化の証人として用いることを願い、それを基準にしてすべてを動かされる方です。厳しいことがあっても祝福するために、証人にするために。それ以外に神様の理由はありません。その神の目線ですべてを見て行かないといけません。何かあれば、ちょっとした事があれば、良い悪いと自分で判断しないように。神は祝福すること以外はありません。私たちを用いようとすること以外にはありません。なので、自分自身のことをイエス様をキリストと信じるというひとつの理由で改める幸いな一週間になることを祈りたいと思います。

（祈り）
恵み深い父なる神様。ありがとうございます。イエス様をキリストと信じることができたことは奇跡中の奇跡であることを、改めて自分自身を本当に恵まれた人、祝福された人として扱うことができるように、それ

を邪魔する自我を下す練習とともに繰り返し、繰り返し、神の御声を自分自身に刻印させることができるようにひとりひとりを守ってください。神のみことばは必ず私を変えられて証人として私を用いることができることを信じます。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン